

課題番号: LZ002
助成額: 100 百万円

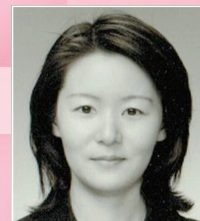
ライフ・イノベーション

人文社会系

平成 23 年 2 月 10 日
～平成 26 年 3 月 31 日

ネットいじめ研究の新展開―「行動する傍観者」を生み出すプログラム―

鈴木 佳苗 筑波大学図書館情報メディア系 准教授
Kanae Suzuki



専門分野

社会心理学
教育工学

キーワード

社会問題／メディア・電子ネットワーク／社会的相互作用・対人
関係／対人コミュニケーション／いじめ予防／情報モラル

WEB ページ

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ppab/>

研究背景

いじめに対する傍観行動が事態の悪化を招く場合があり、事態を目撃した人々の行動に注目した取組への期待がある。目撃後の行動選択とその結果の疑似体験を通して、今後自分にできる行動を考えることが重要である。ネットいじめは学校でのいじめの一形態であり、特にインターネットは事態を早く広く悪化させる傾向がある。

研究目的・特色

本研究では、いじめとネットいじめの低減を目指して、(1) いじめやネットいじめの実態の把握、(2) (1)を基盤として、同じクラスの対人トラブルに遭遇した主人公の行動を選択するインタラクティブ・ソフトウェア (IS) の開発、(3) (2)の IS を組み込んだ教育プログラムの提案とその普及・実践のサポートを行う。

実績

代表論文: Studies in Simulation and Gaming, 22 (Special), 39-48, (2012)
一般雑誌: 道徳教育「携帯電話・ネット使用がいじめに影響する?」12-15, (2013 年 1 月号)

研究成果

いじめやネットいじめの生起状況の把握

- ・ネットいじめの加害行動や目撃した人の行動の生起等を複数の調査から明らかにした。
- ・目撃した人を対象とした調査では、悪口の書き込みや陰口メールの目撃経験が多く、また、目撃経験者と被害経験者の関係が遠いときに介入行動がみられにくく傍観行動がみられやすいこと等が示された。

IS の開発と教育プログラムの提案・実践

- ・いじめとネットいじめの事態の進行過程から体験的に学べる教材を開発した。具体的には、同級生の対人トラブルを目撃した主人公の立場で行動（傍観や仲裁等）を選択し、選択の結果を疑似体験したうえで自分にできる行動について考えること等を目指した IS を開発した。
- ・高校生を中心にこの IS を用いた教育実践を行った結果、自分ができる具体的な働きかけの方法や早期の行動の重要性を理解し、ネット上を含むコミュニケーションの留意点等への考察も見られた。

研究成果の発信・共有

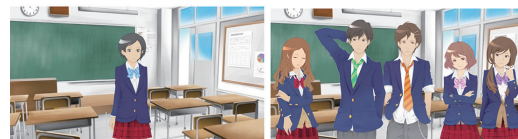
IS 自体、IS や IS の素材を用いた指導案等のダウンロードや指導案等の投稿ができるウェブサイトを開発した。

いじめとネットいじめの 加害行動の実態に関する調査

ネットいじめの目撃行動の 実態に関する調査

いじめとネットいじめの 被害経験の実態に関する調査

本研究の調査（抜粋）



IS の場面の例

2020 年の
応用展開

大学のウェブページを通じて調査結果、IS や IS の素材等を含む教育プログラム等の発信・共有を行うことにより、今後のいじめ・ネットいじめ予防の実践や研究の進展への寄与が期

待される。また、子どもが安心して社会生活を送る環境を整えていくことにも寄与できると考えられる。